

CONTENTS

文化人の本音 河合隼雄文化庁長官対談

第2回 ゲスト 野依良治さん ●名古屋大学教授

能動的に、みずみずしく4

長官コラム 文化庁の抜穴9

特集 国際文化交流の推進 「日本年・中国年」及び「日韓国民交流年」

文化庁提言

「国際交流年」による文化交流の推進

.....村田直樹文化庁長官官房国際課長・10

寄稿

「中国年」「日本年」に寄せて張 愛平・11

韓国文化院と韓日国民交流の年金 鍾文・13

事例紹介

中国交響楽団～The China National Symphony Orchestra～.....15

日韓合同公演「その河をこえて、五月」、これまでの経緯平田オリザ・16

イベント案内

日本年・中国年 文化庁の関連事業紹介18

日韓国民交流年 文化庁の関連事業紹介20

特別記事

文化審議会答申

「文化を大切にする社会の構築について」23

ことばの探検②

「フ」の音の不思議山口仲美・24

インタビュー 未来の扉②

藤原紀香さん(2002年日韓国民交流年親善大使・女優).....25

いきいきミュージアム 美術館・博物館事業レポート②

子どもミュージアムスクール「少年れきし探偵団」

群馬県立歴史博物館28

舞台の現場から 舞台を支える人たち②

国立能楽堂①荒井恒昭・29

子どもたちから見た伝統的建造物群保存地区

関宿(三重県鈴鹿郡関町)30

平村相倉地区(富山県東礪波郡平村)31

日本の伝統美と技を守る人々 選定保存技術保持者編14

島袋光史さん(組踊道具製作)32

在外研修だより 新進芸術家在外研修報告②

.....砂川幸子・森永明日夏・33

文化庁ニュース

民俗文化財の指定及び選択34

平成13年度(第52回)芸術選奨

.....36

平成13年度(第24回)

文化庁舞台芸術創作奨励賞決定

.....39

京都国立博物館

特別展観 重要文化財本殿 平成の大修理竣工記念

祇園・八坂神社の名宝40

国立国際美術館

企画展 イタリア抽象絵画の巨匠:

アフロ ブッリ フォンタナ41

京都国立近代美術館

抽象絵画への道 1896-1921

カンディンスキー展42

東京国立博物館

日韓文化交流特別展 韓国の名宝43

東京国立近代美術館

特別展

森正洋一陶磁器デザインの革新44

イベント案内

新国立劇場スポットライト45

6月の国立劇場46

芸術文化振興基金ニュース47

題字デザイン 桑山弥三郎

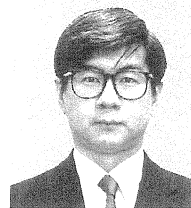
今月の
表紙

《あおき筋ハ川 V》

坂上チユキノ作

1986年 油彩・カンバス

「いま、話そうー日韓現代美術展ー」 出展作品

「国際交流年」による文化交流の推進
—二〇〇二年「日本年・中国年」及び「日韓国民交流年」—文化庁長官官房
国際課長
村田直樹

一〇〇二年は、日中、日韓の両政府
「一」間で「国際交流年」とすることが
合意されています。日中間では、国交正
常化三〇周年という節目の二〇〇二年を
「日本年・中国年」とし、また、日韓間に
おいては、ワールドカップサッカー共同開
催を契機として「日韓国民交流年」と定
めています。これらの「国際交流年」は、
文化、教育、スポーツ等様々な分野で官
民を通じた交流を展開することによって、
両国民間の一層の友好と相互理解を深
めることを目的としています。「国際交流
年」は、様々な交流事業を通じて両国の
文化を幅広く相互に紹介し合う良い機会
であり、文化庁の果たすべき役割は大き
いと認識しています。

国際文化交流を推進する体制は国に
よって異なりますが、中国や韓国
においては、それぞれの国において文化行

政を所管する文化部や文化観光部が国際
文化交流の窓口となる局や課をおくだけ
でなく、各国の大使館等にも職員を配置
して、様々な交流事業を展開しています。
我が国においては、文化庁が海外に自ら
の拠点を持っているわけではありませ
んが、外務省と文化庁が連携・協力して国
際文化交流を推進しており、今回の国際
交流年においても、「日本年」「中国年」
実行委員会や日韓政府間ワーキンググル
ープ会合に積極的に参画するとともに、文
化行政を所管する政府機関として中国文
化部や韓国文化観光部との人的及び組織
的ネットワークを形成してきたところ
です。

その結果、交流年事業の中核を担うよ
うなトップレベルの芸術団体の公演や両
国の芸術家・芸術団体の共同制作による
公演、また国立博物館・美術館間の交流

展などを企画・実施あるいは支援するこ
ととなりました。とりわけ、本年度は、新
たに創設した「文化芸術創造プラン（新
世紀アーツプラン）」のなかで、「国際交
流年」等に基づく二国間の芸術交流や海
外との共同制作を支援する体制を整えま
した。これにより、多くの交流年事業を
支援することとしています。

国際交流年を真に実りあるものとす
るためには、両国の交流年事業を
円滑に推進するとともに、一過性の事業
として終わらせることなく、交流年後も
持続的・継続的に交流を進めることが重
要です。文化庁では、交流年を通じて形
成された両国の芸術家・芸術団体、文
化財専門家や美術館・博物館、劇場など
の「人・組織のネットワーク」を今後の国際文
化交流に生かしていけるよう努めたいと
考えています。

寄稿

「中国年」「日本年」に
寄せて中国大使館文化参事官
張愛平

一〇〇二年一〇月、中国朱熔基総理
が訪日された時、当時の日本政府
首脳と二〇〇二年が中日国交正常化三〇
周年を記念すべき年にあたることから、両
国において、それぞれ「中国年」「日本年」
を開催し、中日両国の一層の相互理解と
友好促進のために、各種記念事業を推進
することで合意に達しました。それを実
現に移すため、中日両国政府並びに民間
団体は積極的な取り組み体制を形成しま
した。中国において、孫家正文化相を主
席に外交部、國務院新聞弁公室、財政部、
教育部、対外経済貿易合作部、国家ラジ
オ映画テレビ総局等一七の政府機関と全
国のな団体から、「中国年」「日本年」中
国側組織委員会が設立されました。日
本において、出井伸之ソニー株式会社代表

取締役会長兼CEOを委員長に「日本年」
「中国年」日本側実行委員会が設けられま
した。

中国全国人民代表大会常務委員会李
鵬委員長が四月二日から九日にか
けて衆参両議長の招きで日本を公式訪問
され、東京、富山、宮崎と鹿児島を訪問
し、円満なる成功を収めました。今回の
訪問は中日関係の健全かつ安定した発展
を一層推し進めるため、重要な意義を持
っています。

中華人民共和国孫家正文化相は四月一
日から五日まで外務省と日中文化交流協
会の共同の招きで、「日本における中国文
化年」開幕記念行事に出席するため、文
化部、外交部、國務院新聞弁公室、国家
ラジオ映画テレビ総局の責任者からなる

一〇名の中国側代表団を率いて来日され、
二〇〇二年「中国年」「日本年」開幕レセ
プションを始め、「未来志向のための中日
文化関係を発展させよう」というテーマ
の記念講演会を行い、中国中央民族楽団
演奏会、「中日国交正常化三〇年の歩み」
写真展等の記念行事に出席しました。ま
た、訪問中、小泉純一郎総理大臣、川口
順子外務大臣、遠山敦子文部科学大臣、
河合隼雄文化庁長官並びに、日中文化交
流協会の辻井喬代表理事、松尾敏男、栗
原小巻常任理事ら、日中友好協会名誉顧
問の村山富市元総理大臣と日中友好協会
会長の平山郁夫東京芸術大学学長を始め、
数多くの各界の友人と会し、中日友好関
係と文化交流について、意見を交換し、共
通認識に達しました。

韓国と日本の両国は長い交流史を持っています。両国とも東アジアに位置し、同じ漢字文化圏・儒教文化圏に属する国として、古来から人的・文化的交流が続いてきました。現在も両国の国民の相互理解と信頼を深めるために、文化・芸術交流、教育・学術交流、青少年・スポーツ交流、そして地方自治団体間による交流など多方面にわたった交流が活発に進められています。

現在、韓国と日本を往来する両国民の数は年間三五〇万人を超えるほど大きく増加しました。一言で言えば、韓日両国は一日に一万人が交流するという新しい

時代を迎えたのです。特に最近の交流は両国の若者達を中心となつて行われています。更に、両国の経済・文化交流を含めた様々な各分野での相互依存が深まり、お互いに今や切っても切れないほど必要不可欠な関係へと発展しています。

このような状況の中で今年の五月三十一日からは、韓日が共同で開催する史上最大イベント、「2002 FIFAワールドカップサッカー大会」が始まります。それだけではなく、今年は「韓日国民交流の年」であり、「韓国訪問の年」でもあります。これらを機会に、両国間における文化・スポーツをはじめとするあらゆる分野における交流が、かつてないほど活発に行われることになるでしょう。

韓日交流の現況

寄稿

韓国文化院と韓日国民交流の年

韓国文化院院長
金鍾文

韓日国民交流の年

これまでの韓日関係及び交流は政治家と官僚が中心となつて担ってきたと言えます。このような既存の韓日交流がもたらした結果を、もう一度振り返ってみようという意味合いから始まったのが、この度の「韓日国民交流の年」の制定であると考えられます。

すなわち、本来の意味での韓日親善及び交流は民間次元の交流から始まることが望ましく、このような民間交流の蓄積こそが二一世紀の正しい韓日関係を保障するものになるであろうという両国間の認識が一致したものであると言えます。

韓日両国政府がワールドカップサッカー

日 本における「中国年」の特徴を紹介すれば、参加する芸術団が多く、内容が豊富多彩であり、規模が大き

く、範囲が広いものであります。中国交響楽団、中国フィルハーモニー楽団、中国民族楽団、中国京劇院、梅蘭芳京劇団、福建省京劇団、江蘇省京劇団、上海京劇団、四川川劇団、北京昆曲劇院、北京人民芸術劇院、上海バレエ団並びに中国雑技団、内蒙古雜技団等大型の公演団が次々日本を訪れたり、敦煌芸術展、故宮博物院秘宝展、シルクロード文物展、龍門石窟文物展等が企画され、中国映画祭、写真展、書道展、絵画展等の開催も予定されています。その他、青少年交流、観光、経済貿易関係の展覧会等があります。

中国において、小沢征爾先生の指揮によるオペラ「蝶々夫人」、故作曲家団伊玖磨先生の作曲によるオペラ「ちゃんちき」、「栗原小巻映画作品展」、宝塚歌劇団の公演、並びに書道の二〇人展を始め、数多くの書道展、絵画展、観光団等の交流が予定しています。

「二〇〇二年中日国交正常化三〇周年記念に「中国年」「日本年」の開催は文化芸術を中心とするすべての分野において、交流を展開し、相互理解と信頼関係を深め、二一世紀に向けての友好協力関係を

2002年「日本年」「中国年」開幕記者会見
左から孫家正中国側実行委員長、出井伸之日本側実行委員長
(写真提供：2002年「日本年」「中国年」日本側実行委員会事務局)



ここで指摘しておきたいことは四月二日の「中国年」「日本年」開幕セレブションは中国側組織委員会と日本側実行委員会の共催によるものである

り、国交正常化以来、三〇年に及ぶ中日友好の歴史において、両国共催の事業というのは初の快挙ということでもあります。また、日本訪問中の李鵬委員長と小泉総理を始め、元総理の海部俊樹氏、羽田孜氏、村山富市氏、森喜朗氏、神崎武法公明党代表、野田毅保守党党首、川口順子外務大臣、塩川正太郎財務大臣、遠山敦子文部科学大臣から各界の人士一五〇〇人以上が集まり、成功裏に開催され、「中国年」「日本年」のよいスタートを切りました。

中国大使館文化部長といたしましては、「中国年」「日本年」を成功させるために、関係部門や団体と密接な連携を保ち、できる限りの努力を果たし、労を惜しまず、一生懸命仕事に励み、使命に恥じない努力を致す所存であります。

「中国年」「日本年」の開催は中日両国において、かならずや、友好の機運を盛り上げ、友好交流の歴史に輝かしい一ページが綴られるに違いないと固く信じております。

The China National Symphony Orchestra

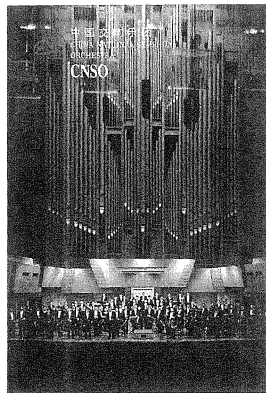
事例紹介

中国交響楽団

二〇〇二年九月二九日に、東京オペラシティホールにて中国交響楽団の招へい公演が予定されています。

中国交響楽団は、中国における最も傑出したプロの交響楽団のひとつです。一九五六年に「中国中央交響楽団」として設立されて以来、歴代の偉大な音楽家や指揮者の指導のもと発展を続け、一九九六年に「中国交響楽団」(CNSO)と改称されました。団員には、国内外のコンクール入賞者も多く、最高レベルの演奏を誇り、他の交響楽団にも影響を与える存在です。

設立当初から新中国の音楽界における指導的存在であった楽団は、次々に幅広いレパートリーを獲得してきました。中国の作曲家LJN、Zhongongの交響曲第一番の初演なども行いました。一九六〇年代には、国内でコンサートを毎週開催するようになり、好評を博しました。西洋の



作曲家による作品に加え、アジアの作曲家の作品、中国の伝統音楽など、古典からロマン派、現代管弦楽にいたる幅広い作品を中国の観客に紹介してきました。また海外のレコード会社との協力により、演奏会のレコードも多く制作、発売されています。

楽団は中国におけるクラシック音楽の振興をリードする存在であるとともに、団員の継続した努力によって、国際的評価も目覚しく高まっています。演奏技術の上昇、音楽教育の支援、音楽教師の養成、交響楽の普及、中国人による交響曲作曲の促進、国内外市場の開拓、音楽交流の推進などに努めてきており、指揮者のカラヤン、小澤征爾、シャルル・デュトワ、作曲家のペンデレツキ、ヴァイオリニストの

オISTRAフ、メニューイン、アイザック・スタイン、ピアノリストのマーサ・アルゲリッチ、チェロ奏者のミツシャ・マイスキーなど、海外の一流アーティストとの共演も枚挙に暇がありません。中でも、指揮者のシャルル・デュトワ氏は、「中国交響楽団は、大きな可能性をもつ楽団である。数年には、必ず世界の注目を寄せる交響楽団になるであろう。」と絶賛しています。また、ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団やボストン交響楽団とも記憶に残る共演を果たしてきました。楽団は、国内ツアー演奏会を頻繁に行い、台湾、香港、マカオを含む四十を超える都市でも定期的に演奏しています。最近五年間では、海外公演の数も増え、アメリカ、イギリス、ドイツ、オーストリア、スペイン、メキシコにおいて公演し、国際的にも大成功を収めています。日本には、一九九九年に中華人民共和国建国50周年を記念して初来日し、小澤征爾氏によって「非常に優れた楽団で、中国、韓国、日本における交響楽の発展における第一級のモデルになる楽団である」と評されました。

【文獻：中国交響楽団パンフレット】



唱劇『玄界灘に咲いた梅の花』

韓日両国間の文化・体育・青少年及び観光交流を担う韓国文化院では「韓日国民交流の年」の成功のために様々な分野とあらゆる対象に向けて多くの文化イベントを準備しています。

今年韓国文化院が開催するイベントは、韓国の伝統文化を日本に紹介することに重点を置く一方、映画、大衆歌謡など韓日両国の大衆文化を両国において活発に交流させ、両国の若者同士の交流がより活性化されることとされています。

韓国文化院と韓日国民交流の年

「大会を共同開催する今年を「韓日国民交流の年」として定め、様々な多くの文化行事を開催するのは非常に意味深いことであり、時期的にも最も適していると思われる。」

したがって、この度の「韓日国民交流の年」は、両国民間における幅広く、様々な交流を促進することにより、新しい韓日関係を構築するための出発点となることとされています。

るよう積極的に努力していくつもりです。中でも特に力を注いでいるイベントは、来る五月八日、九日東京・国立劇場で開催される「韓日宮中音楽交流演奏会」と六月二日から三日まで東京芸術劇場で開催される韓国の唱劇「玄界灘に咲いた梅の花」の公演です。(*「唱劇」とは、韓国の伝統的なオペラスタイルの劇を意味します)

【韓日宮中音楽交流演奏会】は韓国の国立音楽院と日本の宮内庁雅楽部が初めて同じ舞台に立つ合同公演です。また、韓国の唱劇「玄界灘に咲いた梅の花」は壬辰倭乱(文祿・慶長の役)当時、韓国の忠臣・李真榮が日本軍の捕虜となつて日本の和歌山へと渡り、日本社会に大きな儒学の功を残すというストーリーを韓国の社団法人大韓伝統芸術保存会が唱劇として創作した作品で、同公演での日本人役には日本を代表する「劇団四季」が協力しています。

両作品共に韓国の伝統文化の韓日両国の大規模な公演団によるもので、これらを日本の方々に見て頂くことにより、日本の方々の韓国文化に対する認識が大き

く変わるものと期待しています。

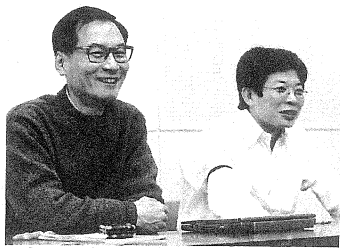
これからの韓日文化交流

「韓日国民交流の年」と「2002 FIFAワールドカップサッカー大会」は、韓日文化交流の新たな出発点になるとしています。儒教文化圏、漢字文化圏という同じ文化圏に属しながらも互いに独特な文化を形成してきた両国民は、ワールドカップを前後して開催される両国の多様な文化イベントを通して互いの文化に対して相互理解し、また尊重していく新たな契機になると思います。

これを契機に韓日両国の全ての分野においての交流が更に活性化されるでしょう。特に文化分野においては両国間の文化イベントに対する協力が本格化されると予想されます。また、両国は善意の競争を通して大衆文化の交流をより活性化させていくと思われれます。これらの動きにより若者同士の交流もより一層活発になるでしょう。

「文化の世紀」と呼ばれる新たな二一世紀を迎えて韓日両国においては、文化競争時代、更には文化協力時代が到来することでしょう。

日韓共同の集中ワークショップ
左から李炳熹氏（韓国側演出家）と筆者



は、舞台の上で日韓二

各場面での登場人物、話す内容（エピソード）、そこから観客にもたらされる情報などを指す。それぞれが、このプロットを分担して書き進めることになった。私は主に前半部分と、最終場面を書く。

八月、私が担当する前半部分の執筆を終了。韓国にメール。以後、戯曲のやりとりは、通訳、翻訳をお願いしているソウル在住の石川樹里さんを通じて、すべて電子メールで行われた。

九月、金明和氏から、後半部分の台本が届く。当たり前のことだが、二人の作家が書いているので、前半と後半で台詞のトーンが大きく異なる。これはゆっくりと解消していくことにする。引き続き、私がラストの部分を書き足して、九月下旬、第一稿がどうにか完成する。

この戯曲は、舞台の上で日韓二

カ国語が複雑に交差する。必要な部分には字幕もつける。稽古用の台本では、その台詞が日本語で発語されるか、韓国語で発語されるかが記号で示されており、さらにそれが、日韓対訳の形でできている。

一〇月中旬、日本側キャストがすべて決定する。

一〇月下旬、李炳熹氏、二回目の来日。三日間のミーティングで演出プラン、舞台美術、客席形状の確定など。

十一月、三回目の渡韓。戯曲について最終的な問題点の洗い出し。

二〇〇二年一月、第二稿脱稿。

韓国側もすべてキャストが決定。

二月、全キャスト、スタッフが揃い、顔合わせや台本読みを兼ねて五日間の集中ワークショップ。この期間に、二人の演出家の方法論を理解してもらう。朝から晩まで、集団創作やトレーニング、台本の読み合わせを繰り返すハードなスケジュールだったが、チームワークは最高にようになった。私は、密かに舞台の成功を確信する。

二人の劇作家は、ワークショップの成果を受けて、第三稿の改訂に着手。現在、

最後の書き直し作業もおかた終わり、今は、四月下旬の本稽古の開始を待っているところだ。演出家としては、もっともドキドキする時間である。

日本側の俳優たちは、にわかに韓国語の勉強を始めたようだ。聞くところによると、三田和代さんが一番熱心らしい。

こうして二年越しのプロジェクトが結果に向かっている。もちろん多くの困難があった。演劇の海外交流プロジェクトの難しさは、どこでも同じだが、特に韓国との交流の場合には、顔立ちから言語、文化的な背景まで似たところが多いので、相手も自分と同じコンテキストで話している、つい思いこみがちである。ここに大きな落とし穴がある。

韓国の演劇人と一つの芝居を作るということは、この落とし穴に落ちては這い上がり、穴を埋めて、また前に進む、そんな作業の繰り返しである。それは、私にとっては常に、劇作家、演出家としての私の仕事を見つめ直す素晴らしい機会でもある。この作品が、日韓の新しい時代を画す、一つの象徴的な舞台になればと願っている。

事例紹介

日韓合同公演 『その河をこえて、五月』 これまでの経緯

平田オリザ（劇作家・演出家）

本公演は、二〇〇二年六月三日から新国立劇場で上演されたあと、六月下旬には、韓国の「芸術の殿堂」での公演を予定されている。

紙面に限りがあるので、事実関係だけを簡潔に記す。

二〇〇〇年二月、パリで自作の演出をしていた私のもとに、栗山民也新国立劇場芸術監督が訪れ、ワールドカップ関連企画として日韓合同公演を行いたいので、本企画に関わるよう依頼を受ける。

帰国後の四月、日韓合同公演の大枠を決定。日韓双方から作家、演出家、俳優を出す。日本側は、私が作・演出を担当。

私は大学時代に一年間、韓国の延世大学に留学した経験があり、韓国語は、いまでも生活に不自由しない程度には話することができる。そんなこともあって、これ

までも民間レベルで、日韓の演劇交流の仕事はしてきたのだが、今回の企画は、やはり大きな節目となるだろう。

至急、韓国側から、何人か、演出家の候補をあげていただく。

七月、渡韓、数名の演出家に会い、それぞれ企画の趣旨を説明する。

九月、最終的に韓国側演出家を、李炳熹氏に依頼する。

十二月、李氏の推薦で、韓国側の劇作家を金明和氏に決定。

二〇〇一年二月、李炳熹氏、金明和氏来日。全体の進行方法を話し合う。また、テーマや時代背景、場所の設定などについてアイデアを交換する。

四月、金明和氏、再来日。四日連続で構成を話し合い、以下のように合意。

舞台は、現代のソウル、漢江の河原。

韓国語学校に通う日本人グループの花見の席に、韓国語の先生の家族がやってくる。この二つのグループや個人がそれぞれ抱える問題を通じて、現代の日韓関係を照射するような作品を目指す。登場人物や話の筋も大まかに決定。

六月、この企画に関しては、私自身二



日韓共同の集中稽古
～集団創作・トレーニング～



度目の渡韓。韓国の新国立劇場にあたる「芸術の殿堂」の稽古場を借りて、四日間、登場人物とプロットを最終的に詰める。ミーティングを繰り返し、ホテルに帰って部屋でプロットを練り直す毎日。

どうにか登場人物を確定し、二四のプロットを作る。ここで言うプロットとは、

二〇〇二年「日本年」「中国年」の文化庁関係の交流事業は以下のとおりです。このほかにも、民間芸術団体等の行う公演等に対する文化庁の支援事業等について、順次決定しており、随時文化庁のホームページにてお知らせしています。

【http://www.bunka.go.jp/54/nichuht.html】

※事業主体の都合により、イベントの内容や日程は変更することがあります。

日本開催

4月

【国際フェスティバル】
利賀フェスティバル2002
～アジアから世界へ～

▽4月27日～5月5日

▽富山県利賀芸術公園(富山県利賀村)

世界の利賀として知られる利賀フェスティバルの新生第一回。アジアの国々のすぐれた舞台作品の上演。中国、ロシア、アメリカ、ドイツの気鋭の演出家たちと日本の俳優が、利賀の地で共同で作品を創造し発表。創造の過程をも含んだ二世紀の新しい型のフェスティバル。

担当機関(財)舞台芸術財団演劇人会

5月

【国際フェスティバル】
日韓・日中韓PAC(舞台芸術)コラボ

6月

【ミュージカル】
日韓共同製作ファミリーミュージカル「海を越える妖怪たち」日本公演

6月7日～7月7日

▽セシオン杉並(東京) ほか

韓国、美しい森が、人間達の開発により破壊されようとしていた。森とそこに住む動物達を守るため、韓国のトッケビ親子、日本のキジムナ、ケンメン、カッパ、中国の孫悟空、沙悟浄、猪八戒たちが一致団結！

担当機関・株式会社劇団えるむ

9月

【演劇】
トム・プロジェクト プロデュース
風間杜夫ひとり芝居
「カラオケマン」中国縦断公演

▽9月25日～26日

▽中央戯劇学院実験小劇場(北京)

▽9月29日

▽浙江省音楽ホール(杭州)

▽10月1日～2日

▽上海話劇芸術センター(上海)

中華人民共和国文化省が主催し、中国対外演出会社が担当する第五回「アジア芸術祭」が、北京・杭州で行われる。この芸術祭に風間杜夫ひとり芝居「カラオケマン」の参加要請を受けて公演が実現。世界、特にアジアに根付いた文化「カラオケ」を題材に、現代のサラリーマンの悲哀を描く。

担当機関・トム・プロジェクト有限会社

10月

【演劇】
流山児★事務所 World Tour 2002
「人形の家」

▽10月3日～7日(予定)

▽中央戯劇学院実験小劇場(北京)

▽10月23日～24日

▽マカオ文化センター(マカオ)



日本の現代演劇を代表する寺山修司の人形劇台本を俳優を使って演出。

10月18日～23日

▽上海大劇院(上海)

▽中山公園音楽堂(北京) ほか2都市

監督・指揮 岩城宏之

独奏 ルドヴィート・カンタ(チェロ)

共演 中国少年少女合唱団

その他 楽器指導セミナー開催

(曲目：予定)

徳山美奈子／
交響的素描
石川(加賀・
能登のうたに



俳優たちの動きには能や歌舞伎の所作を模倣したモダンダンスを取り入れ、銅鑼や太鼓等の生演奏に合わせたパフォーマンスを挿入し、劇中歌として全15曲のオリジナル曲を歌い上げたオペレッタ風現代喜劇。

担当機関・流山児★事務所(有限会社流山児オフィス)

【オーケストラ】
日中国交正常化三〇周年記念
オーケストラ・アンサンブル金沢

「中国公演」

10月18日～23日

▽上海大劇院(上海)

▽中山公園音楽堂(北京) ほか2都市

監督・指揮 岩城宏之

独奏 ルドヴィート・カンタ(チェロ)

共演 中国少年少女合唱団

その他 楽器指導セミナー開催

(曲目：予定)

徳山美奈子／
交響的素描
石川(加賀・
能登のうたに

日本年・中国年

文化庁の関連事業紹介

8月

【展覧会】
日中国交正常化三〇周年記念特別記念
シルクロード 絹と黄金の道

▽8月20日～10月6日

▽東京国立博物館・平成館(東京)

洋の東西を結んだ古代の幹線路・シルクロード。シルクロードに沿う地域の中で、これまで日本ではあまり紹介されることがなかった中国新疆ウイグル自治区に焦点を当て、そこに所在する関連遺跡等で発見された文化財を展示し、かつての華やかな文化の一端を紹介する。

担当機関・東京国立博物館(社) 日中友好協会、NHK、NHKプロモーション

11月

【民俗芸能公演】
国際民俗芸能フェスティバル

▽11月10日

▽飛騨・世界生活文化センター(岐阜)

中国の特色ある民俗芸能の団体を招き、日本の民俗芸能とともに公開して、文化の国際交流及び民俗文化財の保存・振興を図る。

担当機関・(財)石川県音楽文化振興事業団

11月

【オペラ】
オペラ「ちゃんちき」訪中公演

▽11月10日～12日

▽保利劇場(北京)

團伊玖磨作曲(水木洋子作)オペラ「ちゃんちき」を日中国交正常化30周年を記念して、中国・北京で公演。

担当機関・日本中国文化交流協会

【オーケストラ】
2002年日中国交正常化三〇周年記念
海外公演

▽11月22日～24日

▽北京音楽庁(北京)

▽上海大劇院(上海)

西洋のオーケストラと鮮やかに対照する日本・韓国・中国の伝統的楽器群による史上初の管弦楽団。

指揮 朴範薫(韓国) ほか

(曲目：予定)

茉莉花(ジャスミン)／劉文金

フオーク・シンフォニー伝々傳／三木稔 ほか

担当機関・「オーケストラ アジア」日本委員会

8月

【中国開催】
「KABUKI for Everyone」(in Hong Kong)

▽8月9日～10日

▽香港・九龍／文化中心(香港)

*香港特別行政区政府機関／「康樂及文化署」招へい公演。

日本の伝統文化である歌舞伎の公演を行い、相互の文化交流を計る。

担当機関・外国人の為の歌舞伎教室

担当機関・文化庁、岐阜県教育委員会、第四四回近畿・東海・北陸ブロック民俗芸能大会実行委員会

【オーケストラ】
2002年日中国交正常化三〇周年記念
国際共同制作

「オーケストラ・アジア日本公演」

▽11月28日～29日

▽すみだトリフォニーホール(東京)

▽札幌コンサートホール(札幌)

西洋のオーケストラと鮮やかに対照する日本・韓国・中国の伝統的楽器群による史上初の管弦楽団。韓国の朴範薫指揮による演目を予定。

(曲目：予定)

茉莉花(ジャスミン)／劉文金

フオーク・シンフォニー伝々傳／三木稔 ほか

担当機関・「オーケストラ アジア」日本委員会

中国開催

8月

【演劇】
香港歌舞伎公演

▽8月9日～10日

▽香港・九龍／文化中心(香港)

*香港特別行政区政府機関／「康樂及文化署」招へい公演。

日本の伝統文化である歌舞伎の公演を行い、相互の文化交流を計る。

担当機関・外国人の為の歌舞伎教室

【音楽・舞踊】
日中国交正常化三〇周年記念／
日中友好音楽公演2002

中国上海国際芸術祭2002参加

「日本音楽・創造的伝統」

上海音楽学院

「シンボジウム・伝統と現代音楽」

北京第五回華州芸術祭「伝統と現代」

▽11月10日▽上海大劇院(上海)

▽11月14日▽保利劇場(北京)

日中共同音楽文化「雅楽」をテーマに「舞楽法会」の伝統舞台芸術と作曲家、石井真木による日本雅楽(雅楽会)とオーケストラ曲「遭遇II番」を中国初演。中国上海・北京の交響楽団を石井真木が指揮。同時開催するデジタルカルチャー「雅楽」展では、最新のコンピュータ技術による雅楽を紹介。

担当機関・日中友好音楽公演2002委員会

【国際フェスティバル】
第九回Beethoven演劇祭

▽11月上旬～下旬(中国・杭州)

アジア地域の舞台芸術の上演。日中韓3か国の共同フェスティバル。

担当機関・日本Beethoven委員会

※日中韓の事業については「日本年・中国年—文化庁の関連事業紹介—」のページで紹介しています。

マジックで繰り広げられるコミカル・リリカル・パワフルなステージ。
担当機関：(株) わらび座

5月

【展覧会】

日本美術名品展

▽5月14日～7月14日

▽国立中央博物館 (ソウル)

縄文時代から近世におよぶ日本美術の優品を絵画・彫刻・工芸品・書跡・考古資料の各分野の中から厳選し、展示する。

担当機関：文化庁、国際交流基金
いま、話そう―日韓現代美術展―

▽5月24日～7月14日

▽韓国国立現代美術館 (カチョン)

担当機関：国立国際美術館、韓国国立現代美術館

【音楽】

韓日宮中音楽交流演奏会

▽5月22日・23日・24日

▽韓国国立国楽院 (ソウル)

▽5月27日・28日

▽プサン文化会館 (プサン)

担当機関：日本芸術文化振興会、国際交流基金

【演劇】

演劇

Media Theater Baan in

Samzie Space (ソウル)

▽8月 会場未定 (コチヤン)

台詞を使わず音楽を独自の手法(ジェスダグンス)を使い表現。

戦争平和や女性の自立、コミュニケーション

ヨンの素晴らしいものを描く。

担当機関：La Compagnie d'An

7月

【演劇】

2002ソウル児童青少年演劇公演

芸術フェスティバル招聘公演 (ソウル)

●「金剛山のトラ退治他」

▽7月23日・24日 (他)

▽世宗センター小ホール他 (ソウル)

韓国朝鮮の伝統的な芸能をベースに昔話をオペレッタ化。

担当機関：オペレッタ劇団ともしび

●「魔法のファイフィス」

―卵をとるのはだあれ―

▽7月21日・22日

▽国立劇場小ホール (ソウル)

魔法の子どもファイフィが卵を追いかけて、旅をしながら成長し、最後に卵をお母さんに送りどける話。

担当機関：(有) 劇団キオ

●「風の子あそびやとつびんちゃん」

▽7月27日・28日

▽文芸劇場小ホール (ソウル)

九州各地の伝承あそびやわらべ唄を素材に、現代の子どもたちと一緒に創る舞台。

担当機関：劇団 風の子九州

●ぴーかぶー

▽7月29日～8月1日

▽サムソク文化福祉財団子どもの家 (ソウル)

低い円形の舞台をグルリと取り囲み、オカリナ、ギター、チエロの演奏と三人のハーモニーで劇が始まる。あそび歌、布あそびなど、子どもたちをまきこんでいく。

担当機関：劇団 風の子九州

●「17才のオルゴール」

▽7月25日～26日

▽世宗文化会館小ホール

重い障害を背負って生きる主人公のさまざまな葛藤と、それを乗り越えて人間的に成長していく姿を通して、「生きる」ことの重さ、命の尊さをわかりやすく描く。

担当機関：秋田雨雀・土方与志記念青年劇場

8月

音楽劇「ふたごの星」

▽8月16日～18日

▽韓国国立劇場 (ソウル)

宮澤賢治の童話を脚色。歌と音楽が加わった、大人も子どもと一緒に楽しめる音楽劇。

担当機関：(財) 世田谷区コミュニティ振興交流財団

10月

【演劇】

イマジネーションステージ

▽10月15日・16日

▽韓国国立劇場内 (ソウル)

伝説の王ラ・ムーが物質界の王と戦い一度死して、太陽の王として生まれ変わる。魂の不変と精神性を尊重することの大切さを歌い上げる。

日・韓の古典と現代の文化を融合させたイメージ演劇。

担当機関：日本文化伝統産業近代化促進協議会

11月

【オーケストラ】

2002年中韓国民交流年記念「オーケストラ・アジア韓国公演」

▽11月15日～21日

▽韓国国立劇場 (ソウル)

西洋のオーケストラと鮮やかに対照する日本・韓国・中国の伝統的楽器群による史上初の管弦楽団。

担当機関：「オーケストラ アジア」日本委員会

◆長官対談◆
 「文化人の本音」河合雄雄文化庁長官対談
 松岡和子 翻訳家
 「長官コラム文化庁の抜穴」

◆特集◆

全国発掘調査最新情報(埋蔵部門)

【文化庁提言】

埋蔵文化財行政総論

藤本強 東京大学名誉教授

【座談会】

発掘された日本列島展二〇〇二

（発掘速報展）と遺跡発掘の最新成果

大塚初重 明治大学名誉教授

坂井秀弥 主任文化財調査官

近年の地方埋蔵文化財行政の役割

市民とともに歩む埋蔵文化財

佐古和枝 関西外国語大学教授

編集後記

この特集を通じて、交流年関連事業の様々
 な主催団体における広報担当の方々と接し、国
 際文化交流における熱い情熱を感じました。紹
 介させていただいた中国と韓国との関連行事
 は多岐にわたっており、興味深いものがたくさ
 んあります。共同制作や海外公演などの機会
 を通じてどのような国際交流が繰り広げられ
 るのか楽しみです。

◆連載◆

「こぼの探検」……………山口仲美 静岡大学教授

「インタビュール 未来の扉」
 橋口亮輔(映画監督)

「いざいざミュージアム」美術館・博物館事業レポート」
 岡山県立美術館

「舞台の現場から」舞台を支える人たち」
 「新しい」国立劇場

「子どもたちから見た伝統的建造物保存地区」
 高知県室戸市吉良川町・秋田県角館町角館

「日本の伝統美と技を守る人々」
 表装道具製作・高田三男

「在外研修だより」
 在外研修員 森永明日夏・砂川幸子

「文化ボランティア通信」

◆文化庁ニュース◆

美術品の新指定
 春の褒章、叙勲受賞者

文化庁月報 5月号 (通巻404)

平成14年5月25日印刷・発行

編集——文化庁

〒100-8959 東京都千代田区霞が関3-2-2

発行——株式会社 ぎょうせい

本社 〒104-0061 東京都中央区銀座7-4-12

本部 〒167-8088 東京都杉並区荻窪4-30-16

電話 編集 03 (3571) 2126

販売 03 (5349) 6666

URL : http://www.gyousei.co.jp

印刷所——ぎょうせいデジタル株式会社

●本誌の掲載のうち、意見にわたる部分については、筆者個人の見解であることをお断りいたします。

定価540円 [本体514円] 送料76円

年間購読料6,480円

本誌のご購読のお申し込みは、直接弊社の本・支社、あるいは最寄りの書店へお申し込みください。

広告の問い合わせ・申し込み先

(株) ぎょうせい営業部広告課

電話03 (5349) 6657 (ダイヤルイン)

©2002 Printed in Japan ISSN 0916-9849

本誌は本文用紙再生紙を使用しております。

文化庁では、ホームページで、文
 化庁に関する情報を幅広く提供し
 ています。ご意見、文化庁月報の
 見聞へお寄せください。

●ホームページアドレス●

http://www.bunka.go.jp